－所蔵作品紹介－

須田　桑翠　SUDA Sosui

黒柿小箪笥

くろがきこだんす

作品データはこちら

須田桑翠（明治43～昭和54）は、桑指物の名工前田桑明門下の父桑月に就いて木工技術を学んでいる。昭和30年発足した日本工芸会に参加、また伝統工芸展にも出品、戦後の工芸界の再興に貢献し、江戸指物の継承者として重要な地位を占めた。指物とは、木工の素材を板状に加工し、はぎあわせて接合する技法である。指物の指すとは、物さしを使って部材を加工する意味からきている。この技法は、応用範囲が極めて広く、桑翠は、桑、黒柿、槐などを用いて、文机、棚、小箪笥などを制作した。

「黒柿小箪笥」は、変化に富んだ木目をもつ黒柿材を用いている。柿の木の心材に黒色の縞が生じ、暗紫色となったものを黒柿と称し、建築や工芸材として珍重する。この作品では、その黒柿材が、さらに寄木にされて直方体の各側面を覆っている。

桑翠の作品は、桑材を中心としているが、ここでは引き出しの間に部分的に使用され、指物の端正な美を際立たせている。黒柿の独特の木目による柔らかな色彩と調和して、小品ながら江戸指物の冴えをみせている。

旭川美術館だより「氷華」No.25（1990.12発行）「収蔵作品から」より